

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611610035		
法人名	医療法人 照陽会		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族との信頼関係の構築に努めている。利用者一人ひとりが自分らしく、楽しく安心して暮らせるよう検討し支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に季節を感じてもらえるようプランターに季節の花を植えたり、居間等に季節の花を生けたりしている。利用者や家族、地域住民から、地域のお祭りや花見等の行事に関する情報を得て積極的に出かけるなどし、地域と交流を図っている。また、利用者は、地域の少年野球チームの子ども達との交流を心待ちにしており、生きがいに繋がっている。事業所内は、つねに清潔に保っており採光等にも留意している。職員は、明るい笑顔で利用者に接しており、利用者は歌やゲーム、おやつづくりなどを楽しんでいる。隣接する母体法人の運営する医療機関と密に連携を図って、利用者が安心して生活を送ることができるよう支援している。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が、理念を理解して共有することでケアに活かせるよう努めている。	毎週月曜日の朝の申し送り時に、管理者や職員で、理念が実践できているか話しあって確認している。全職員が理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の少年野球のチームやボランティア、民生委員等の来訪があり交流を図っている。また、地元の行事や縁日、散歩時などに、地域の方と挨拶を交わしている。	地元の少年野球チームやボランティア、民生委員等の来訪があり、利用者とともに交流を図っている。また、天気の良い日には散歩をしたり、少年野球の応援や地元の行事、お祭り等に積極的に出かけたりして、地域住民との相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元学生の職場体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。日ごとの取り組み等を報告している。参加者から情報を得たり、意見を出してもらったりして、サービスの質の向上に活かせるよう検討している。	運営推進会議では、利用者の状況やサービスの実際、取り組み状況等を報告している。参加者からは、地域の行事等に関する情報を得たり、意見をもらったりしている。出された意見は、勉強会等の機会に話しあい、サービスの質の向上に活かしているが、記録を行うまでには至っていない。	運営推進会議で得られた様々な意見や情報をサービスの質の向上に反映するため、今後は記録の方法や内容、意義等について検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに、市担当者に相談にのってもらっている。	毎月、市担当者に報告書を提出している。その際、事業所の取り組みを報告したり、様々な相談に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束の廃止に関する研修会を受講し、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関を施錠せず、安全で自由な暮らしを支援している。	日中は見守りを徹底することで玄関を開錠し、安全で自由な暮らしの支援に努めている。全職員で身体拘束をしない支援のあり方について話しあっている。年1回、法人本部の開催する身体拘束の廃止に関する研修会を受講しているが、全職員で内容を共有する仕組みの確立までには至っていない。	さらに質の高いサービスを提供するため、研修会に出席できなかった職員は報告書にサインをするなどして、全職員で確実に情報を共有できるような仕組みの構築に取り組まされたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、研修会等で高齢者等の虐待防止関連法に関する学習を行い虐待の防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はなく、十分な理解はできていないが、勉強会を行って理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行って同意を得ている。不安や疑問点等は、そのつどお聞きし納得いくまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各種会議や面会時等に、意見や要望等を聞いている。出された意見や要望等は、ミーティングで話しあって運営に反映させている。玄関に意見箱を設置している。	家族の来訪時や運営推進会議の際など、意見を出しやすい雰囲気留意している。利用者の言葉や態度から思いや希望を把握するよう努めている。出された意見や提案は、ミーティングなどで話しあっており、早期段階で運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日ごろから職員とコミュニケーションを図っている。現場の意見を大切に考えており、出された意見等を運営に反映させている。	週3回、医師である代表者が往診に来ている。また、日ごろから、代表者や管理者は職員とコミュニケーションをとるよう努めている。現場の声や意見を大切に捉え、出された意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は、職員とコミュニケーションをとるよう心がけている。職員が向上心をもって働けるよう努めており、資格取得や外部研修への参加の支援を行っている。また、職員の健康にも配慮し、年2回健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は、職員が研修を受講する機会を設けている。職員が技術や知識を身につけることにより、ケアの質が向上するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を設け、相互訪問や意見交換を行っている。ケアやサービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 笠井病院グループホーム 実践状況		外部評価	
					実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった際には、本人や家族に見学に来てもらえるよう勧めている。また、本人や家族の不安・要望等をお聞きすることで安心してもらえるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、家族の立場に立って思いをお聞きするよう努めている。信頼関係を構築することで、不安を解消できるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを受け止めて提案を行い、必要なサービスを提供できるよう対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との生活のなかで、ともに喜怒哀楽を感じ、言葉で感謝の気持ちなどを伝えるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日ごろの状況を伝えたり、相談にのったりして、信頼関係の構築に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人と継続的に交流できるように来訪を働きかけている。馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。		今までの馴染みの知人や友達と継続的に交流することができるよう、声かけや電話で来訪を働きかけている。また、馴染みの理・美容院等の利用を支援しており、関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士が良好な関係を築くことができるよう支援している。また、毎日を楽しみ過ごすことができるよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所へ遊びにきてもらっており、継続的に関係を維持できるよう取り組んでいる。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの生活のなかで、本人の言葉や表情等から思いを把握するよう努めている。意向の把握が困難な場合には家族から情報を得ている。	日ごろの生活のなかで、利用者に接する機会を多く設け、言葉や表情等から思いを把握するよう努めている。意向の把握が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得て、これまでの暮らしの把握に努めている。馴染みの関係を築くことができるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム等の把握や理解に努めている。申し送りにより、利用者の心身状況の変化等を全職員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らし続けられるように本人や家族の視点に立って考察したり、要望や身体状況の変化に対応した介護計画書の作成に留意している。	日ごろの関わりのなかで、本人や家族の視点にたつて意見や要望を聞いている。出された意見や要望について関係者間で話しあい、現状に応じた介護計画の作成に努めている。6か月に1回、計画を見直しているが、本人や家族の要望や心身状況の変化に応じて、そのつどの見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日ごろの様子や変化を記録している。職員間で情報を共有し、日ごろのケアや介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・要望等に応じて、柔軟に対応できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣的美容師の来訪があり、美容サービスを利用している利用者もいる。また、運営推進会議の際、役場職員や消防署職員と交流する機会を設けており、安心して暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関により医療の受診ができることを説明し、同意や納得を得たうえで支援している。その他の医療機関の受診が必要な場合は、家族の付きそいのもと受診を支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。母体法人の運営する医療機関や歯科医師等による訪問診療を受けている。他の医療機関への通院は、主に家族の付きそいのもと受診しているが、家族の同行が困難な場合は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関と24時間連絡をとれる体制を構築している。情報の連携を図り、適切な助言や対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体医療機関へ入院した際には、医療機関関係者と情報交換を行っている。その他の医療機関へ入院された場合には、母体医療機関の医師を通じて情報提供を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の気持ちに留意したうえで、母体医療機関と連携を図って対応している。	入居の段階で、重度化した場合や終末期のあり方に関する事業所の方針等を説明し共有化を図っている。利用者の心身状態に変化が見受けられた際には、本人の気持ちを大切に捉えたうえで家族や関係機関と話し合いを重ねて検討し支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し勉強会を行っている。また、母体医療機関とは24時間の緊急時連携体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力のもと母体医療機関や電気会社と避難訓練を行っている。緊急時の持ち出し袋も準備している。	年2回、母体法人と合同で消防署や電気会社の方々とともに火災を想定した避難訓練を実施している。また、年2回、事業所独自の訓練も行っており、利用者や地域住民、職員の参加も得ている。しかし、夜間を想定した訓練を実施するまでには至っていない。	様々な機関との連携を図ったうえで質の高い訓練を実施しているが、日中の火災のみを想定した訓練となっているため、事業所の性質等に留意し、夜間や地震時を想定した訓練の実施に向けた検討にも期待する。

自己	外部	項目	笠井病院グループホーム		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう本人の気持ちを大切にさりげない言葉かけや対応を心がけている。	年1回、プライバシーの確保に関する研修会を開催している。気づいたことなどについて、すぐに話しあうことのできる機会を確保している。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないようさりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう声かけを行っている。また、意思表示が困難な方には表情から読みとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの心身状態に配慮したうえで思い通りに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自分で決めていただいております、職員は見守りを行っている。支援が必要な場合には、さりげなく手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体医療機関で、利用者一人ひとりの状態に応じた食事形態に調理し提供している。食事の準備等の一連の流れは職員が行うが、エプロンの準備や引き膳等のできることは手伝ってもらっている。利用者は、毎日の食事を楽しみにしている。	母体法人の運営する医療機関で調理しており、利用者一人ひとりの状態に応じて食べやすいように工夫している。季節の食材を取り入れたり、利用者に希望を伺ったりして、特別にメニューを変更することもある。また、利用者とともにおやつを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約時に十分な説明を行って同意を得ている。不安や疑問点等は、そのつどお聞きしており納得が得られるまで説明している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行って利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。自尊心に配慮し、さりげなく声かけや誘導を行っている。トイレでの排泄を大切にしているが、本人の状態にあわせて紙パンツやパット等の使用も検討している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を用いて、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。本人の状態にあわせて紙パンツやパット、ポータブルトイレを使用し、排泄の自立に向けた支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分摂取量に留意している。薬を使用している方もいるが、なるべく自然排便を促すように努め、日中に適度な運動を継続して行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	羞恥心や負担感等に配慮し、利用者の希望に応じた入浴の支援を行っている。入浴が困難な場合には、清拭や足浴を行って気持ち良く過ごしていただけるように支援している。	利用者の羞恥心や負担感等に配慮したうえで、一人ひとりの希望に応じた入浴の支援に努めている。寝たきりなどの理由により、入浴が困難な場合には、清拭や足浴、シャンプーの方法を工夫するなどして、気持ちよく過ごすことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、外気浴や体操等を促し、夜間に安眠していただけるよう工夫している。また、体調に応じ ゆっくり休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬の保管ケースで管理しており、職員は内容を把握している。病状等の変化に応じて、母体医療機関に連絡をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日ごろの暮らしのなかで、本人の希望に応じて買い物や散歩、レクリエーションなどを行っている。利用者一人ひとりの状態にあった気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元のお祭りや隣町のチューリップ公園等へ外出の支援を行っている。外出が困難な方も敷地内で外気浴を楽しんだりしている。敷地内でのお花見には、体調に応じて家族とともに参加していただいている。	利用者の希望に応じて、地元のお祭りや隣町のチューリップ公園、季節の花見、子ども達の野球の応援等への外出を支援している。隣接する医療機関の敷地内で花見を楽しむこともあり、車いすや押し車等を活用して地域住民とともに楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で少額のお金を所持している方もいるが、使用することはほとんどない。多数の方は家族が管理されており、必要品も家族が来訪時に持ってきてくれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけることが困難な場合でも、通話の支援を行っている。孫等に年賀状を書く方もいるため、利用者一人ひとりの希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、共用空間に四季に応じた飾りつけを行ったりして、季節感が感じられるよう工夫している。室内温度も利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	利用者と職員は、プランターにパンジーを植えて事業所の周囲に飾っている。共用空間には季節の花や手作りの品を飾っており、明るい雰囲気や季節感を肌で感じることで工夫を行っている。台所からは、調理の音やにおいを感じることができ、生活感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを配置し、共用空間で自分の好きな場所で自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れたものを持ち込んでもらっている。本人の生活の場の延長として、居心地良く過ごすことができるよう支援している。	利用者や家族と相談し、日ごろ使い慣れた品物を持ち込んでもらうことで、事業所を本人の生活の場の延長と考えてもらえるよう工夫している。衣類入れや時計、写真のほか、散歩時の押し車を持ち込んでいる利用者もおり、事業所は本人本位に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの心身状況を把握し、安全に自立した生活を送ることができるよう支援している。		